

編輯室より

倉敷には器械があり、廣島には人がある。此の兩方面からの合作で出来た多くの月の寫眞の一枚が本誌本號の口繪です。こうしたものが幾枚も總會の時に花山で陳列されて、人々を喜ばせました。

本號の通俗講演は會長が去十八日大阪で行はれたものです。少しく長いので、次號へ続きます。此の講演と「標準天文學」とを讀んで置けば、最も新しい天文學の全部に觸れるわけです。

年初から御知らせして置いたヨハン・ケプレルは此の1930年中に歐米各地で其の死後300年の記念の集りや事業が行はれました。太陽系の最も重大要素である遊星の運動法則三つを發見し、後世の偉人ニウトンに勉學の機縁を與へた此の大先輩ケプレルは、嘗にドイツのみと言はず、全世界が記憶すべき人物でせう。本號にある竹田氏のケプレル小傳は、一字一句注意して讀むべきものです。

遊星界の水素の問題を論じたメンゼル氏は現代米國に於ける少壯有爲の天文家で、リク天文臺員です。以前から大遊星の研究を深くやつてゐる珍しい篤學者です。

同好會觀測部の觀測報告が續々山積しつゝあるのは愉快なことです。紙面の小さいのに、とかく、制限され勝ちなのは残念ですが、之れを載せないのは生きた天文研究の息の根を止めるやうなものですから、將來も、なるべく後書にしないやうに勉めます。

一般の會員たちからも原稿を送つて下さるやう願ひます。來年早々から新會員野尻抱影氏の麗筆が載る筈です。

一人が一人を

會員は各自必ず一人づゝ新しい入會者を御紹介願ひます。——去る總會での申し合はせですから。